

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	電気化学2		
科目基礎情報								
科目番号	5M04		科目区分	専門 / 必修				
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	材料システム工学科(2017年度以降入学生、但し、令和4年度は材料工学科を含む)		対象学年	5				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	参考書: 電気化学 基礎化学コース (丸善), 新しい電気化学 (培風館), イオン平衡 (化学同人), ベーシック電気化学 (化学同人), エッセンシャル電気化学 (東京化学同人), 金属電気化学 (共立出版)							
担当教員	矢野 正明							
到達目標								
1. 水溶液の電気化学的性質について説明できる。 2. 水溶液からの金属の電析反応について説明できる。 3. 金属やめっきの腐食現象が説明できる。 4. 金属の防食法について説明できる								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	水溶液の性質 (導電率, 輸率, 強電解質, 弱電解質) について説明できる		水溶液の性質 (導電率, 輸率) について説明できる		水溶液の性質 (導電率, 輸率) について説明できない			
評価項目2	水溶液からの金属の電析反応における, 拡散過電圧, 電荷移動過電圧について説明できる		水溶液からの金属の電析反応における, 過電圧について説明できる		水溶液からの金属の電析反応における, 過電圧について説明できない			
評価項目3	金属やめっきの腐食現象について, 局部電池機構に基づき説明できる		金属やめっきの腐食現象について, アノード部とカソード部を説明できる		金属やめっきの腐食現象について, アノード部とカソード部を説明できない			
評価項目4	金属の防食法の4種 (環境制御, 電気防食, 被膜, 組成制御) について説明できる		金属の防食法をいくつか説明できる		金属の防食法をせつめいできない			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	金属材料のめっきや腐食などについて理解を深める 実務経験のある教員による授業科目: 企業において各種表面処理鋼板の研究・開発に従事していた教員により, 実際の研究・開発と学問との関連性も含めて行うものである。							
授業の進め方・方法	この科目は, 以下に示す科目と関連していることを念頭に受講すること 化学, 基礎材料化学, 材料化学, 物理化学, 電気化学 I							
注意点	(1) 点数配分: 中間試験50%, 期末試験50% (2) 評価基準: 60点以上を合格とする (3) 再試: 再試は必要に応じて行う (4) 提出を指示したレポートを1つでも未提出の場合は単位修得を認めない							
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
		週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	腐食の分類	腐食現象を大きく分類できる				
		2週	腐食のメカニズム	局部電池機構について理解する				
		3週	鉄の腐食 (水素発生型腐食, 酸素消費型腐食)	腐食現象がpHによって変化することを理解する				
		4週	腐食速度の単位変換 (mdd, A/m <sup>2</sup> )	腐食速度の表現方法が複数あることを知る				
		5週	鉄の不動態	不動態化の原理を理解する				
		6週	孔食と隙間腐食	局部腐食のメカニズムを理解する				
		7週	防食法の分類	様々な防食方法を知る				
		8週	耐食性評価法	耐食性の評価方法を知る				
	2ndQ	9週	溶液の導電率	溶液の導電率を変化させる要因を知る				
		10週	モル導電率	モル導電率を計算できる				
		11週	輸率	輸率を使って, イオンの移動に関する計算が出来る				
		12週	電極反応 (電気二重層, 拡散層)	電極近傍で起こっている現象について理解する				
		13週	過電圧 (電荷移動過電圧, 拡散過電圧)	過電圧の詳細について理解する				
		14週	水素過電圧	過電圧の中でも, 特に特異な水素過電圧について理解する				
		15週	フォルマーバトラーの式, ターフェルの式	フォルマーバトラーの式からターフェルの式を導出できる				
		16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週			
専門的能力	分野別の専門工学	材料系分野	物理化学	理想溶液と実在溶液の違いを説明できる。	4			
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	

総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	0	30
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20